

108 イエスは世の光

ヨハネによる福音書 8：12～20

・・・・・・仮庵祭の7日目のこと・・・・・・

12 イエスは再び（祭司長、ファリサイ派、律法学者などの指導者たちや群衆に向かって）言われた。

「わたしは世の光である。わたしに従う者は暗闇の中を歩かず、命の光を持つ。」

→【イエスの神性宣言】イエスは神を民衆に理解させ、神がすべての人に新しい命を授けようとしていることを宣べ伝えるために世に来た。

→聖書には、「世の光」が、このヨハネ 8：12 を含めて、4 か所に登場する。

【参考】世の光

タイトル(書名)	章:節 聖句 [検索対象総数: 4 / 聖句等の総数 33250 <世の光>4個]	聖書Navi Active 393128091 (新共同訳) [検索語彙: 世の光]
S マタイによる福音書	5:14 あなたがたは世の光である。山の上にある町は、隠れることができない。	
S ヨハネによる福音書	8:12 イエスは再び言われた。「わたしは世の光である。わたしに従う者は暗闇の中を歩かず、命の光を持つ。」	
S ヨハネによる福音書	9:5 わたしは、世にいる間、世の光である。」	
S ヨハネによる福音書	11:9 イエスはお答えになった。「昼間は十二時間あるではないか。昼のうちに歩けば、つまずくことはない。この世の光を見ているからだ。」	

【参考】命の光

タイトル(書名)	章:節 聖句 [検索対象総数: 3 / 聖句等の総数 33250 <命の光>3個]	聖書Navi Active 393128091 (新共同訳) [検索語彙: 命の光]
K ヨブ記	33:30 その魂を滅亡から呼び戻し／命の光に輝かせてくださる。	
K 詩編	56:14 あなたは死からわたしの魂を救い／突き落とされようとしたわたしの足を救い／命の光の中に／神の御前を歩かせてくださいます。	
S ヨハネによる福音書	8:12 イエスは再び言われた。「わたしは世の光である。わたしに従う者は暗闇の中を歩かず、命の光を持つ。」	

13 それで、ファリサイ派の人々が（イエスに向かって）言った。

「あなたは自分について（一人だけで）証しをしている。その（ような）証しは真実ではない。」

14 イエスは答えて言われた。

「たとえわたしが自分について証しを**するとしても、その証しは真実である。自分がどこから来たのか、そしてどこへ行くのか、わたしは知っているからだ。しかし、あなたたちは、わたしがどこから来てどこへ行くのか、知らない。**

15 **あなたたちは肉に従って裁くが、わたしはだれをも裁かない。**

16 **しかし、もしわたしが裁くとすれば、わたしの裁きは真実である。なぜならわたしはひとりではなく（父なる神と一体であり）、わたしをお遣わしになった父と共にいるからである。**

17 **あなたたち（人間）の律法には、二人が行う証しは真実であると書いてある。**

→律法によると、人を有罪とし、処刑するには二人以上の証人が必要である。

→申命記 17：6 死刑に処せられるには、二人ないし三人の証言を必要とする。一人の証人の証言で死刑に処せられてはならない。

18 わたしは自分について証しをしており、わたしをお遣わしになった父もわたしについて証しをしてくださる。」

19 彼らが（嘲って）「(それなら) あなたの父はどこにいるのか」と言うと、イエスはお答えになった。「あなたたちは、わたしもわたしの父も知らない。もし、わたしを知っていたら、わたしの父をも知るはずだ。」

20 イエスは神殿の境内で教えておられたとき、宝物殿の近くでこれらのことを話された。しかし、だれもイエスを捕らえなかった。イエスの時がまだ来ていなかったからである。

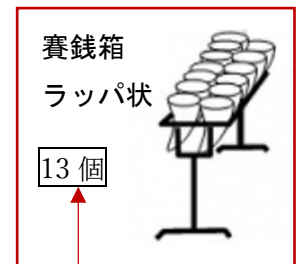
→宝物殿の近くで=回復訳：奉獻所、新改訳：献金箱のある所、リビング・バイブル：宮の中の献金箱が置いてある所、NIV：offerings 賽銭箱（献金箱）、NKJV：the treasury（宝物庫）

→宝物殿



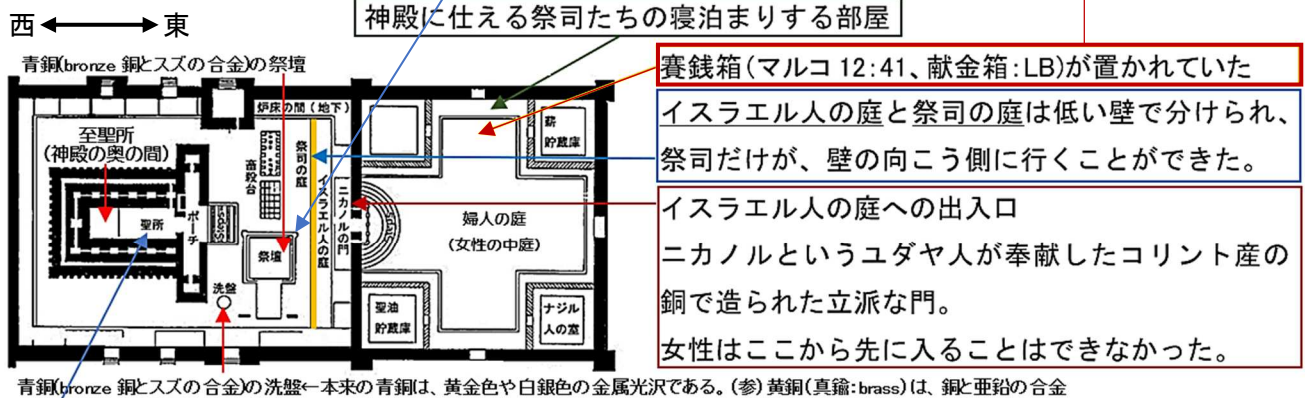
神殿の宝物殿には祭司だけしか入れなかったもので、イエスが宝物殿でファリサイ派と話をしたとは考えにくい。

恐らく、神殿宝物用の賽銭箱（献金箱）が設置されていた「婦人の庭（女性の中庭）」のことであろう。



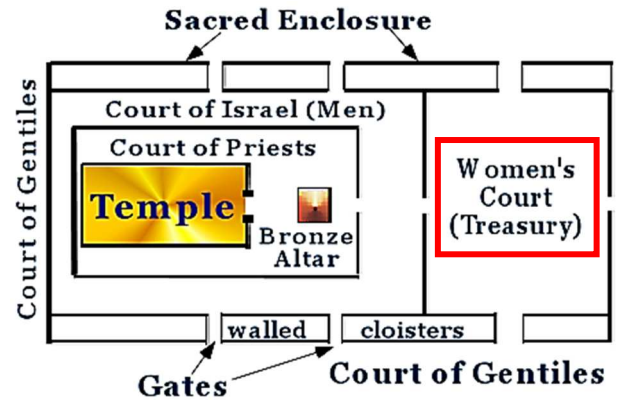
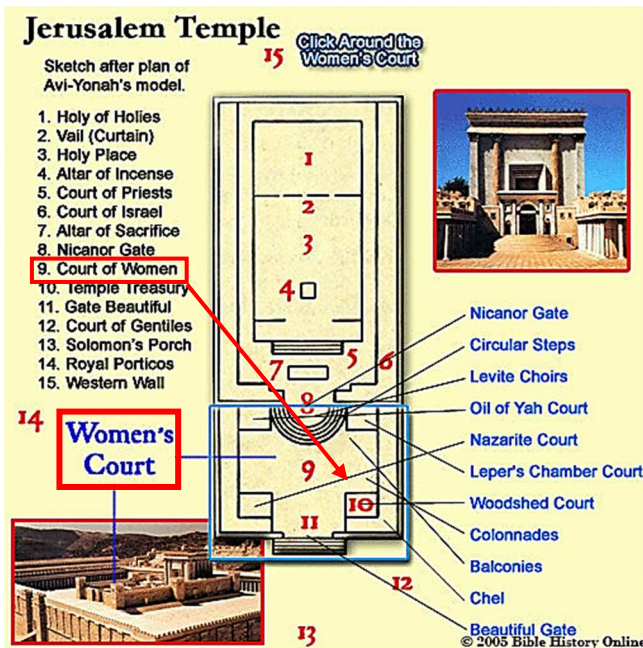
⑧ 宝物殿は、ヨハネによる福音書 8：20 の聖句にしか登場しない。

※参照：106 仮庵祭でのイエス(3)
マイム・マイム Mayim Mayim「水取りの儀式」



▶ 聖所には金の燭台(=メノラー、打ち出し造り)と聖なるパン(→神が神殿に臨在することを表す)のための金の机(聖卓：歴代誌下 4：8)、香を供えるための香の壇(金の祭壇：列王記上 7：48)があった。

【参考】 宝物庫 the treasury



【参考】 都上り

都上りとは、イスラエルの3大祭り、「過越祭」、「七週祭」、「仮庵祭」に、エルサレムの神殿に巡礼することです。

詩編 120 編から 134 編までの 15 編は、「都に上る歌」という言葉で始まります。これらの詩編は、都上りの旅路で歌われた歌です。

「上り」ということばは「段」と訳することもでき、ヘブライ語「マアラー」は、上方への動きを表します。また、都上りの「歌」とあるように、これらの詩には曲が付けられていました。

都上りの歌の 122、124、131、133 編は、ダビデ王によって、127 編はダビデの息子ソロモンによって書かれましたが、その他の都上りの歌には、作者の名前が記されていません。

都上りの歌は暗記され、ユダヤ人が年3回、祭りのためにエルサレムまで続く、長い道のりを旅する際に歌われました。

祭司たちは神殿に入る際に、この都上りの歌を歌いました。

口伝律法をまとめた、ミシュナーには、次のように記されています。

「神殿の婦人の庭（女性の中庭）」に続く「15 段の階段」には、それぞれに 15 の歌があり、楽器を携えたレビ人がち、歌った。」

申命記 16 : 16 では、「男子はすべて、年に三度、すなわち除酵祭、七週祭、仮庵祭に、あなたの神、主の御前、主の選ばれる場所に出ねばならない。ただし、何も持たずに主の御前には出はならない」と命じています。ヘブライ語で「祭り」を表す「モエド」は、「指定された時や場所、聖なる季節、定められた祝宴」を意味し、神ご自身が民のために聖別された時を表しています。

【参考】 貧困者に支持者の多いファリサイ派 →ヘレニズム(=ギリシア風)文化に対して否定的

ユダヤ教の教派で、イエスの時代に最も高く評価されていたのは、中間時代に誕生したファリサイ派で、この時代、民衆にとっては、ユダヤ教=ファリサイ派的ユダヤ教であった。

ファリサイ派はハスモン朝※1 時代に形成され、天使、悪霊、魂の永遠性、死後の世界を信じ、律法遵守を徹底し、特に安息日や断食(週2回、木曜日と金曜日)、施しを行うことや清めの儀式を強調した。

律法学者(モーセ五書<トーラー>—創世記、出エジプト記、レビ記、民数記、申命記—を研究する学者)の多くがファリサイ派に属し、聖書(旧約)の独自の研究と伝承による解釈を固執、主張した。聖職者である律法学者(ラビ rabbi)を信仰の仲介者とし、ユダヤ人会堂の多くを管理していた。ファリサイ派は、

律法を研究、遵守して、どのように生きるべきかについて教えていたために、民衆に尊敬されていた。ファリサイ派の名称は、「パルーシーム (パルシム)」 = 「分離する者」あるいは「清い者」を意味するヘブライ語に由来するとされるが、正確には不明である。

ユダヤ人指導者の中には密かにイエスを信じる者もいたが、ユダヤ人会堂から追放されるのを恐れ、このことを公言しなかったし、もし、それが発覚した場合は、ユダヤ人指導者たちは、イエスを信じるようになった者をユダヤ人共同体や会堂から追放した (ヨハネによる福音書 9 : 22)。

イエスを訪問したニコデモは最高法院に属する議員で、ファリサイ派の教師でもあった (ヨハネによる福音書 3 : 1)。

また、ファリサイ派の人々はイエスが自分たちの立場や影響力を脅かすと考え、イエスを殺そうと企んだ (マタイによる福音書 26 : 1~5、マルコによる福音書 14 : 1~2、ルカによる福音書 22 : 1~6、ヨハネによる福音書 11 : 45~57)。

エルサレム神殿の崩壊 (AD70 年) 後はユダヤ教の主流派 (神殿に拠っていたサドカイ派は消滅) となり、会堂に集まって聖書を読み、祈りを捧げるスタイルが、ユダヤ教のスタイルとなっていた。

※ 1 : BC 140 年頃から BC 37 年までユダヤの独立を維持して統治したユダヤ人王朝。BC 166 年に起きたユダ・マカバイによるセレウコス朝軍への決起から約 20 年後に成立。フラウィウス・ヨセフスによればハスモンという名は一族の先祖、祭司マタティアの祖父の名前に由来しているといわれている。



フラウィウス・ヨセフスは、帝政ローマ期の政治家及び著述家である。AD66 年に勃発したユダヤ戦争でユダヤ軍の指揮官として戦ったがローマ軍に投降し、ティトゥスの幕僚としてエルサレム陥落にいたる一部始終を目撃、後にこの顛末を記した「ユダヤ戦記」や「ユダヤ古代誌」を著した。

ヨセフスは、青年時代にサドカイ派やエッセネ派などを経て、最終的にファリサイ派を選んでいる。

【参考】 わたしの時／イエスの時／御自分の時 (登場順)

タイトル(書名)	章:節 聖句 [検索対象総数 : 7 / 聖句等の総数 33250]	聖書Navi Active 393128091 (新共同訳)
S マタイによる福音書	26:18 イエスは言われた。「都のあの人のところに行ってこう言いなさい。『先生が、「わたしの時が近づいた。お家で弟子たちと一緒に過越の食事をする」と言っています。』」	
S ヨハネによる福音書	2:4 イエスは母に言われた。「婦人よ、わたしとどんなかわりがあるのです。わたしの時はまだ来ていません。」	
S ヨハネによる福音書	7:6 そこで、イエスは言われた。「わたしの時はまだ来ていない。しかし、あなたがたの時はいつも備えられている。」	
S ヨハネによる福音書	7:8 あなたがたは祭りに上って行くがよい。わたしはこの祭りには上って行かない。まだ、わたしの時が来ていないからである。」	
S ヨハネによる福音書	7:30 人々はイエスを捕らえようとしたが、手をかける者はいなかった。イエスの時はまだ来ていなかったからである。	
S ヨハネによる福音書	8:20 イエスは神殿の境内で教えておられたとき、宝物殿の近くでこれらのことを話された。しかし、だれもイエスを捕らえなかった。イエスの時がまだ来ていなかったからである。	
S ヨハネによる福音書	13:1 さて、過越祭の前のことである。イエスは、この世から父のもとへ移る御自分の時が来たことを悟り、世にいる弟子たちを愛して、この上なく愛し抜かれた。	